

# 画像診断の質アップ

## 1・5テスラMRI

### 新庄徳洲会病院が導入

新庄徳洲会病院（山形県）は、老朽化などを理由にMRI（磁気共鳴画像診断）装置の入れ替えを行い、4月8日から新型機の運用を開始した。

新たに導入したのは、1・5テスラのMRI。これまで使用してきた0・5テスラの装置に比べ、より高精細で良質な検査画像を得ることが可能で、画像診断の質の向上に寄与する。これにより脳や脊髄、血管、腹部、四肢など全身を検査でき、小さな病変も発見しやすくなる。

また検査時間が短縮されるため、患者さんの身体負担が軽減。検査効率の向上により、緊急検査への対応も、これまで以上に迅速に行える。

同院診療放射線科の鈴木恵次技師長は「新型MRIにより、画像診断する医師のニーズに合う良質な画像を提供し、診療の質の向上につながるよう頑張っていきたいです」と意気込んでいる。

同院は病診連携の一環として、地域の診療所からMRIやCT（コンピュータ断層撮影）などの各種検査を受託する活動を行っている。

今後はさらに地域連携を充実させ、新しいMRIの共同利用を広めていきたい考えた。